

ウェルビーイング向上に寄与する街の要素の探索に関する研究

イネープリングシティ・ウォークによる市民の主観データの収集と分析

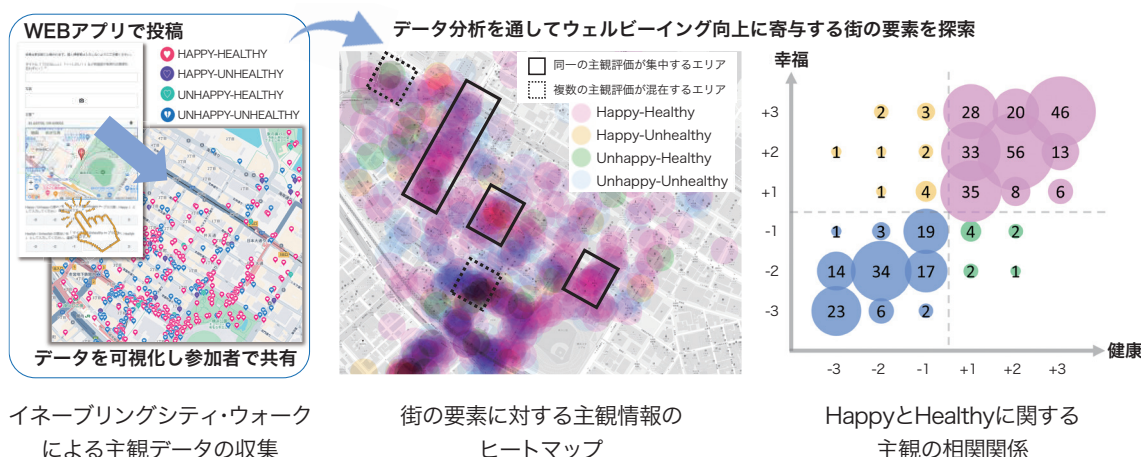


佐藤 大樹*1・出口 亮*2・片岡 公一*3・渡辺 広道*4・村田 尚寛*5・鈴木 伸治*6・西井 正造*6・武部 貴則*6

Study on Exploring Urban Elements That Contribute to Improving Well-Being

Collecting and Analyzing Citizens' Subjective Perception Data from Enabling City Walk

Taiki SATO, Ryo DEGUCHI, Kimikazu KATAOKA, Hiromichi WATANABE, Naohiro MURATA, Nobuharu SUZUKI, Shozo NISHII and Takanori TAKEBE



研究の目的

近年、主に医学の分野で都市環境とウェルビーイングに関する研究が急増しています。本研究は、建築・まちづくりの立場から、あらゆる活動やサービスの基盤となる都市環境に、ウェルビーイング向上をもたらす要素を実装することを目指します。本報は、実際の街を市民と共に歩きながら、ウェルビーイングを構成する幸福と健康の双方を同時に高めることのできる街の要素を探索し、都市・建築分野でのウェルビーイング向上に関する知見の蓄積を目的としています。

技術の特長

2021年より6地域17回にわたり、市民、自治体関係者、民間企業職員、研究者や学生等と共に、街の要素を探索する調査活動を行いました。調査活動では、実際の街を歩きながらウェルビーイングに関連すると感じた街の要素について、参加者が、スマートフォンのWEBアプリを用いて、写真や幸福・健康といった主観を投稿しました。投稿データは地図上で可視化され、参加者同士で共有可能になります。また、投稿データを基に、ヒートマップによる空間分布の分析、個人の投稿履歴の時系列分析、地域をまたいだ横断的な統計解析等、街の要素と個人の主観に関する様々な分析が可能となります。

主な結論と今後の展開

主観アンケートが位置情報や属性情報と共に収集されることで、多くの人が共通して幸福を感じる場所が可視化される等の、街の新たな空間情報としての価値を持つようになりました。また、WEBアプリで各自が自由に投稿できることで、少数意見を含む多様な意見を考慮して街を俯瞰できるようになりました。これらを通して、花壇やベンチ等のウェルビーイング向上に寄与する要素や、植栽管理等のウェルビーイング向上に効果のある改善点等を見出すことができました。今後は、地域性や市民の属性・多様性に配慮したウェルビーイングな建築・まちづくりに向けた設計手法の構築を目指します。

*1 技術センター イノベーション戦略部 技術開発戦略室
 *2 設計本部 先端デザイン部
 *3 (株)山手総合計画研究所
 *4 横浜支店 営業部開発部

*5 社会医療法人愛仁会 千船病院
 *6 横浜市立大学